

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 4 年 4 月 8 日(2022.4.8)

【公開番号】特開 2020-178980(P2020-178980A)
【公開日】令和 2 年 11 月 5 日(2020.11.5)
【年通号数】公開・登録公報 2020-045
【出願番号】特願 2019-85298(P2019-85298)
【国際特許分類】
A 6 1 B 3/10(2006.01)
【F I】
A 6 1 B 3/10 3 0 0

10

【手続補正書】
【提出日】令和 4 年 3 月 31 日(2022.3.31)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

20

光を出射する光源と、
前記光源から出射された前記光の進行方向を変えることで、前記光を被検眼の眼底上で走査する走査部と、
前記光の光路のうち前記被検眼と前記走査部の間に配置され、前記走査部から導かれた前記光が前記走査部の動作に伴って旋回される旋回点を形成する対物光学系と、
前記光の照射に伴う前記眼底からの光を受光する受光素子と、
を備え、
前記対物光学系は、
パワーを有する光学部材のうち最も前記被検眼側に配置され、前記走査部から導かれる光を前記旋回点へ向けて折り曲げることで、前記眼底における前記光の走査領域を 60 度以上の広角領域とする被検眼側レンズ系を備え、
前記被検眼側レンズ系は、前記走査領域を前記広角領域とする範囲内で、前記対物光学系の光軸に沿って移動可能に設けられていることを特徴とする眼底撮影装置。

30

【請求項 2】
請求項 1 に記載の眼底撮影装置であって、
前記眼底撮影装置の筐体における前記被検眼側に着脱可能に装着される広角レンズアタッチメントをさらに備え、
前記被検眼側レンズ系が、前記広角レンズアタッチメントに設けられていることを特徴とする眼底撮影装置。

40

【請求項 3】
請求項 1 から 2 のいずれかに記載の眼底撮影装置であって、
前記対物光学系に含まれるレンズのレンズ面または曲率中心面と、前記対物光学系の撮像面と共役な位置との距離が閾値以上となる範囲に、前記被検眼側レンズ系の移動範囲が制限されていることを特徴とする眼底撮影装置。

【請求項 4】
眼底撮影装置の筐体における被検眼側に着脱可能に装着される広角レンズアタッチメントであって、
前記眼底撮影装置は、

50

光を出射する光源と、
前記光源から出射された前記光の進行方向を変えることで、前記光を被検眼の眼底上で走査する走査部と、
前記光の光路のうち前記被検眼と前記走査部の間に配置され、前記走査部から導かれた前記光が前記走査部の動作に伴って旋回される第 1 旋回点を形成する第 1 対物光学系と、
前記光の照射に伴う前記眼底からの光を受光する受光素子と、
を備え、
前記広角レンズアタッチメントは、
前記筐体のうち、前記光の光路上における前記第 1 対物光学系と前記被検眼の間に着脱可能に装着されると共に、
パワーを有する光学部材のうち最も前記被検眼側に配置され、前記第 1 旋回点を通過した前記光が前記走査部の動作に伴ってさらに旋回される第 2 旋回点を形成することで、前記眼底における前記光の走査領域を、前記広角レンズアタッチメントが装着されていない場合の前記光の走査領域に比べて大きくする第 2 対物光学系を備え、
前記第 2 対物光学系が、前記第 2 対物光学系の光軸に沿って移動可能に設けられていることを特徴とする広角レンズアタッチメント。

10

20

30

40

50